

令和2・3年度 千代田区研究協力校(園)

新たな価値を 創造する子どもたちの育成

 千代田区立番町幼稚園・小学校 

150th

あいさつ

千代田区教育委員会教育長 堀米 孝尚

千代田区立番町幼稚園・番町小学校は、令和2・3年度、千代田区教育委員会研究協力園・校として、研究主題を「新たな価値を創造する子どもの育成」と設定し、研究及び実践に熱心に取り組んでいただきました。

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(中央教育審議会 令和3年1月)では、急激に変化する時代の中で、子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働していくことの重要性が示されています。本校園では、新たな価値を創造するための資質・能力を整理し、それらを育成するため、子どもの学びの姿を意識しながら問題発見・解決を図っていく「番町学びのプロセス」として、手だてを工夫し、保育・授業づくりをしてきました。このことは、これからの社会の変化を柔軟に受け止め、主体的に向き合い、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていく上で非常に有意義なものであり、大変意義深いものであると確信しております。

最後になりましたが、中村 千絵 園長、渡辺 裕之 校長をはじめ、本校園教職員の方々のご協力と研究に対する真摯な姿勢に深く敬意を表すとともに、本校園の研究に関してご指導・ご助言を賜りました全ての皆様に心より御礼を申し上げます。

はじめに

千代田区立番町小学校長 渡辺 裕之

千代田区研究協力校としての2年間、学校教育の大きな転換期に、「進取の精神」をもって研究・研修に努めるとの方針のもと研究に取り組んでまいりました。研究主題に掲げる新しい価値の創造に向け、45分授業に拘泥しない一斉授業の在り方の変革などを旗印に掲げ、この2年間の研究で教員の意識の醸成は果たせたものと自負しております。具体的な教育実践に結びついていくことについては、研究の歩みを止めることなく継続して取り組んでまいります。千代田区教育委員会ならびにご指導いただきました先生方には、引き続きのご指導をお願いするとともに、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。

千代田区立番町幼稚園長 中村 千絵

子どもたちは、日々の遊びの中で、自分の考えを表し、自分の考えの実現に向かって試行錯誤しています。この「考える」という行為を、「新たな価値を創造する」ことにどうつなげていくのか、幼児教育は何をするべきなのか、このような疑問から研究が始まりました。幼稚園教員が小学校の全ての学年の研究授業に参加する、また、小学校教員が幼稚園の研究保育に参加し、授業も保育も同じ観点で協議会を進めていく。この手法により、9年間を通して、子どもの「考える」はどのように深まっていくのか、そのために幼児期の学びには何が必要なのか、について研究を深めていくことができました。本研究で得た知見を今後の教育活動に生かし、未来を創る子どもたちを育ててまいります。

令和3年度 千代田区立番町幼稚園・小学校 研究構想図

【番町小の教育理念】

平和な国家社会の形成者として、考え行動できる子どもを育成する

【番町幼稚園・小学校の教育目標】

○ 考える子 ○ 思いやる子 ○ やりぬく子

新たな価値を創造する子ども

【問題発見・解決力】

【コミュニケーション力】

【やりぬく力】

子どもの学びの姿(目指す学びの姿)

子どもが意欲的に学びに取り組むための学習過程の工夫

子どもが互いに認め合いながら学ぶための指導の工夫

子どもが自らの思考の過程を実感できる振り返りの指導の工夫

子どもが学ぶための教師の手だて

番町学びのプロセス(学ぶための土台)

研究仮説

全ての教科において、「番町学びのプロセス」を土台とし、学びの姿を意識しながら、子どもたちがすすんで課題に向き合い、仲間と協力しながら考え、最後まで学びを止めないような指導を工夫することで、新たな価値を創造する子どもが育つであろう。

研究主題

新たな価値を創造する子どもの育成

【千代田区共育ビジョン】

- 1.人となりのつながりの中で生きる
- 2.自分自身と向き合う
- 3.新しい時代を生き抜く

- 教育基本法・学校教育法の改正趣旨
- 学習指導要領の改訂趣旨
- 中教審答申令和3年1月26日
「令和の日本型学校教育の構築を目指して」

【児童・幼児の実態】

- ・自己肯定感が低い
- ・自尊心が高い
- ・人の気持ちに寄り添えない
- ・知識豊富・多才・発想力が豊か
- ・知的好奇心が高い
- ・新しいことへの不安感がある

【教師の願い】

- ・人を大切にできる子ども
- ・困難に対してあきらめない子ども
- ・自他共に認め合う心をもつ子ども

- 予測不可能で急速に変化する社会
- 持続可能な社会を目指すSDGsの価値観
- 自他共に認め合う心

児童の実態調査

令和3年3月アンケート実施

○研究に取り組むにあたって、全校児童から学習に対する意欲、学びの姿に関する実態など、10項目の質問を児童に行い調査した。特に、下記は子どもたちが、学びにどのように向かうか、学びの中でどのように学ぶか、どのように学びを見直し振り返るかなど、学び方についてどのように意識しているかについての項目を重点的に考察し、研究に向けての課題を見出した。

よく当てはまる

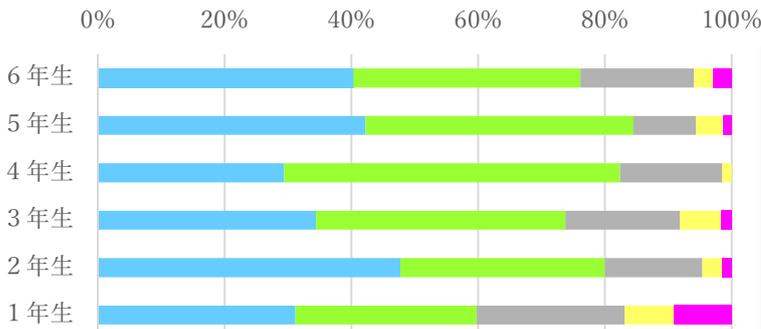
大体当てはまる

どちらともいえない

あまり当てはまらない

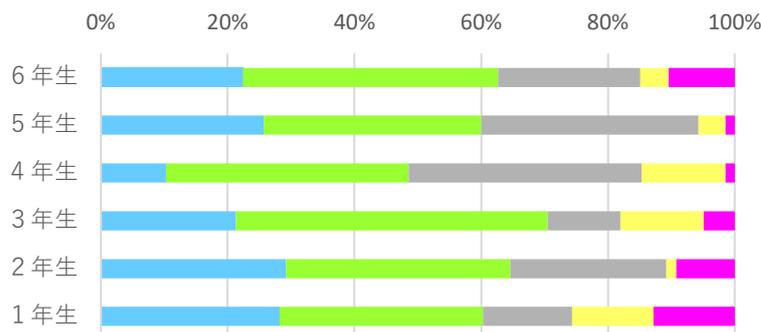
まったく当てはまらない

1. 学習のめあてに対して、自分の考えをもっていますか。



どの学年も、「どちらともいえない」、「あまり当てはまらない」、「まったく当てはまらない」児童が20%程度いる。めあてをもって学習に取り組むことが前提と考えると、約20%の児童が否定的な意見をもっていることは大きな課題といえる。課題に向き合い、意欲的に学習に取り組むことができるような手だてを講じていく。

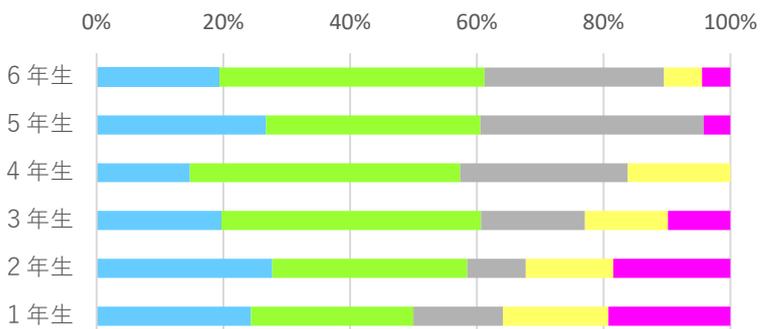
6. 友達の考えに対して、自分の意見を言うようにしていますか。



設問6では、学習の中で友達の考えに対して反応しようとしている児童が全体として少ないといえる。相手の意見を聞いていない、または関心がない、あるいはどのように反応したらよいか分からないことが考えられる。また、設問8では、「よく当てはまる」「大体当てはまる」児童が60%程度、あるいはそれ以下という結果である。学習の中で自分の考えが受け入れられていると感じている児童が少ないということである。上記の2つの設問の結果から、学習の中で自分の意見を発信するだけでなく、友達の意見を認め、受け入れながら学び合う必要がある。

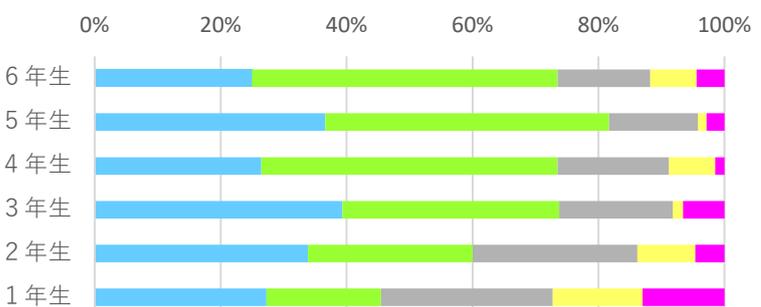
授業の展開では、話し合い活動を中心に学びの中で児童が互いに認め合いながら学ぶ時間を設定し、教師が話し合わせる意図を明確にもって話し合いの活動に取り組ませていく。

8. 自分の考えが友達に認められていると感じていますか。



第3学年以上の学年は、約70%以上の児童が、「よく当てはまる」「大体当てはまる」と答えている。高い結果とはいえないが、友達の意見を聞いて自分の考えを見直そうとしている児童が少なからずいることが分かる。自分の学んできたことを適宜振り返り、自分の考えの変容をつかむと同時に、次に生かそうとする姿を育てるために児童が互いに認め合いながら学ぶことのできる手だてを講じていく。

9. 友達の考えを聞いて、自分の考えをもう一度考え直していますか。



幼児の実態

1. 自分で考えて、遊びを楽しむ

(㊦学習のめあてに対して、自分の考えをもっていませんか)

- ・3歳児では、教師が意図的な環境を構成することで、それらに興味をもって関わり、遊ぼうとする姿が見られる。教師と一緒に遊びを経験することで、翌日も自分でその遊びをしてみようとするなど繰り返し楽しむ姿が見られる。
- ・4歳児では、自分のしたい遊びを友達と一緒に遊ぶ中で、友達の刺激を受け、遊びの幅を広げる姿が見られる。「私はこうしたい」「〇〇で遊びたい」というめあてをもち、遊びの場や使うものを、自分で考えて作ろうとする姿がある。
- ・5歳児では、自分の目的をもち、これまでの経験を生かしながら遊ぶ姿が見られる。また、教師がさまざまな素材を用意したり、友達の遊びに気付かせるような関わりをしたりすることが遊びの刺激となる。



2. 友達と一緒に遊びを楽しむ中で、自分の考えを表す

(㊦友達の考えに対して、自分の意見を言うようにしていますか)

- ・3歳児後半頃には、友達と同じ場で遊びを楽しむようになる。その中で「私はお母さん役が良い」「積み木はこうやって置いてほしい」と自分の思いを言葉にする姿が見られる。しかし、どのように言ったら良いか分からない幼児の姿もあるため、教師が仲介して思いの伝え方を知らせている。
- ・4歳児になると、一緒に遊ぶ友達に自分の思いやイメージを言葉で伝え、遊びを楽しむ姿が見られる。教師は、言葉に出したことで、思いを実現できる嬉しさや満足感が味わえるよう援助している。
- ・5歳児では、遊びの目的を友達と共有することで、自分の作った物を見せ、自分の考えを伝え、友達の話聞いて「こうしたらうまいかな?」と友達の遊びの目的を達成するためのアイデアを出す姿が見られるようになる。その中でうまいかない思いを感じる幼児もいるため、教師も一緒に考え、過去の経験を思い出せるような言葉掛けをしたりすることで試行錯誤しようとする姿も見られる。



3. 友達と自分の思いの違いに気付き、相手の思いを受け止めようとする

(㊦友達の考えに対して、共感をもったり認めたりしていますか)

- ・3歳児では『友達と一緒に遊びたい』気持ちと『でも自分はこうしたい』という気持ちがぶつかり葛藤する姿が見られる。教師が仲介し、思いを受け止めながら、友達にも思いがあることを知らせている。
- ・4歳児になると、相手にも思いがあることが分かり、一緒に遊ぶ中で友達の話に耳を傾けたり、受け入れようとしたりする姿が見られる。一方で、思いが違うことで怒ったり、その場を離れたりすることもあり、まだ教師が互いの思いを受け止めたり、分かりやすい言葉で知らせたりしていく必要性もある。
- ・5歳児では、友達の話聞くことで、相手の思いを知り、「じゃあこうするのはどう?」と自分たちで折り合いをつけられるようになってくる。必要に応じて教師が話を整理することで友達の思いが分かりやすくなり「その考え良いね!」と友達の良さにも気付く姿が見られる。



4. 友達と考えを出し合い、目的を達成しようとする

(㊦友達の考えを聞いて、自分の考えをもう一度考え直していますか)

- ・4歳児では、教師が中心にそれぞれの考えを聞き取ったり、共有したりしながら、みんなで考えたことでより楽しくなったという経験を積み重ねていくことができるようにしている。
- ・5歳児では、目的が共有され、話し合う視点が明確であることで、その視点にあった意見を出す姿が見られる。また様々な人数単位(学級全体、グループ、同じ遊びの友達)で話し合う経験を積み重ねる中で「これでいい?」と友達一人一人に確認する姿や、自分たちで折り合いをつける姿、友達の話聞いて新たに考える姿も見られる。

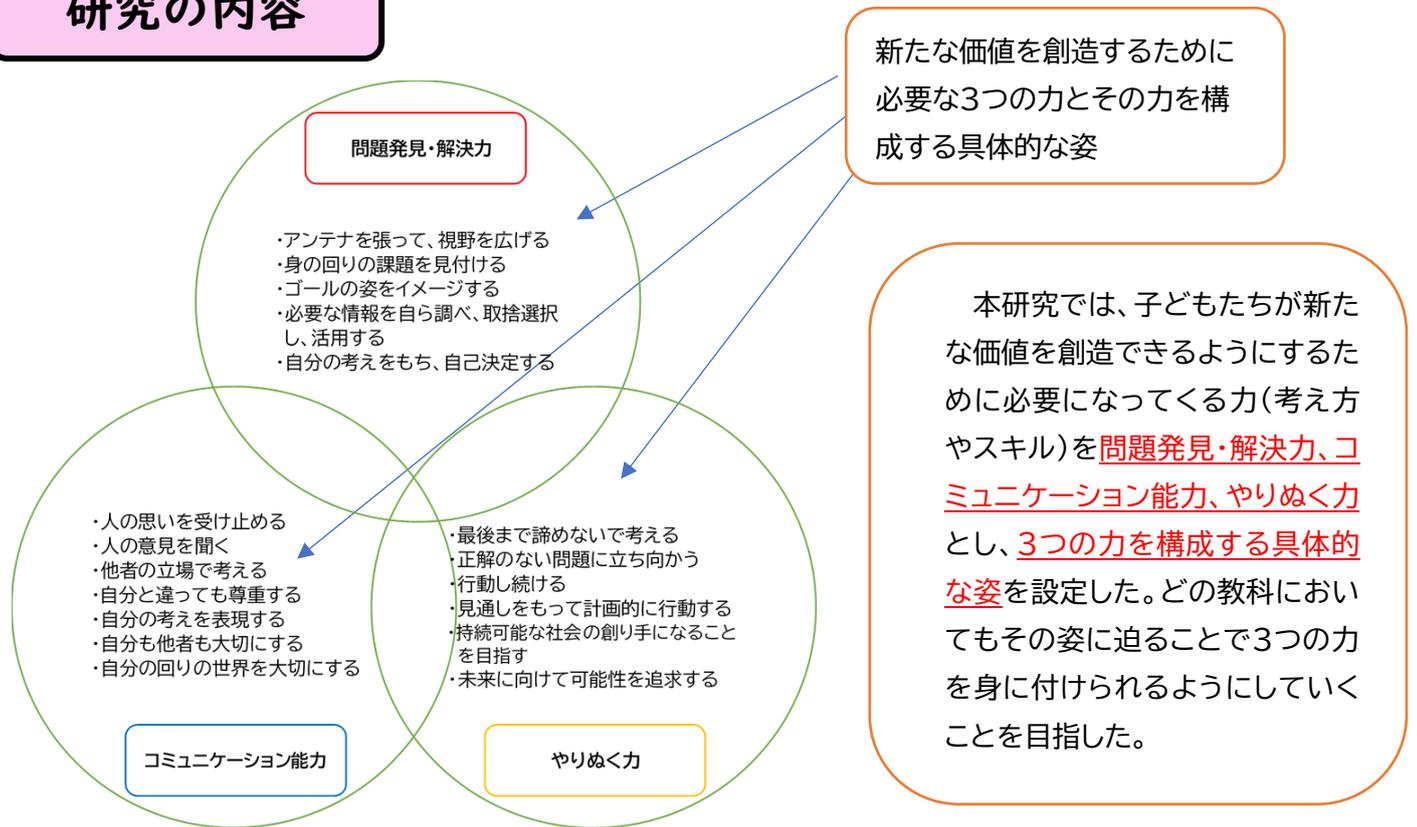
新たな価値を創造する子どもの育成

主題設定の理由

「新たな価値を創造する」とは、「番町の子どもたちが、これからの予測できない変化の時代の中で、グローバルな規模でのイノベーションなど大規模なものに限られることなく、地域課題や身近な生活上の課題を自分なりに解決し、自他ともに人生や生活を豊かなものにしていこうと様々な工夫をしながら生き抜いていくこと」また、「感性を豊かに働かせながら、未来を創っていく、社会や人生をよりよいものにしていくこと」と定義した。

この研究をとおして、番町の子どもたちが「新たな価値を創造する」ために、必要になってくる力を身に付けさせたい。必要な考え方やスキルを、「問題発見・解決力」「コミュニケーション力」「やりぬく力」とし、その3つの力を構成する具体的な姿を下記のように設定した。どの教科においてもその姿に迫ることで3つの力を身に付けられるようにした。

研究の内容



全ての教科において、学びのプロセスを土台として、子どもの学びの姿を意識しながら、学び方の指導を工夫して3つの力を構成する具体的な姿に迫った。

学びのプロセス

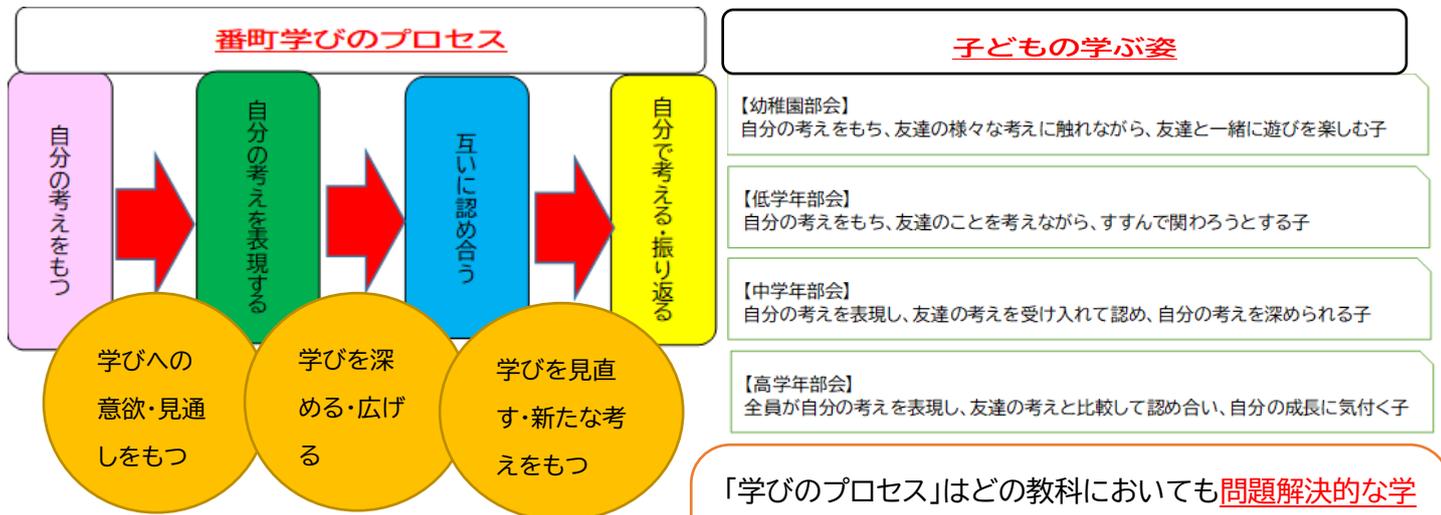
○全ての学習における問題解決的な学習の流れの徹底

子どもの学ぶ姿

○目指す子どもたちの学びに対する姿

子どもが学ぶための手だて

○子どもが主体的に学んでいくための教師側の手だて



子どもが学ぶための手だて

「学びのプロセス」はどの教科においても問題解決的な学習を継続する必要があること、「子どもの学ぶ姿」は、子どもたちがその姿で学びに向かえることを教師側が意識して指導している。

① 子どもが意欲的に学びに取り組むことができる学習過程の工夫

i) 学びに対する子どもの興味・関心を喚起する導入
◇児童が学習に向き合い、意欲をもって取り組むことができるようにする

ii) 単元計画の工夫
◇子どもが単元全体の見通しをもって学習するための工夫をする

iii) 「学びのプロセス」の活用
◇「学びのプロセス」を学習中に提示し、本時の授業の流れをつかみ、見通しをもつことができるようにする

iv) いつでも振り返ることのできる学習記録の活用
◇学習中、いつでも自分の学びの足跡を振り返ることができるように、学習の記録を教室掲示したり、ワークシートを貼りためたりしてまとめる

学びのスタンダード

ハンドサイン

② 子どもが互いに認め合いながら学ぶための話し合い活動の工夫

i) 意図を明確にした話し合い
◇話し合い活動では、話し合う内容、目的、形態(人数・グルーピング)を明確に提示することによって、円滑に進められるようにする

番町スタイル

③ 子どもが自らの思考の過程を実感できる振り返りの指導の工夫

i) 学習感想の視点の焦点化
◇学習の振り返り際には、【分かったこと】と【学習感想】を区別して書かせる
◇「学習感想を書くポイント」を提示し、書く視点を明確にすることで、自分自身がその学習でどんなことを学び、考えてきたかを分かりやすくする

ii) 自分の考えの変容が分かる振り返りの設定
◇学習前と学習後で自分の考えの変容が分かるように、ワークシートの形式やノート指導の工夫をする

研究の実践記録

問題発見・解決力

3歳児 「太陽の光で遊んでみよう」



3歳児が扱ったことのあるカラーセロファンを使って、太陽の光を利用した遊びの環境を設定した。光がさして、床にうつった色を見て「うつってる!」「先生、見て!」と、発見を教師に伝える姿が見られた。

【成果】

○興味や関心のきっかけとなるような環境を意図的に用意したことが、幼児が主体的に関わり、心を動かしたり、気付いたりする姿につながった。

4歳児 「オクラの中を覗いてみよう」



4歳児が育てているオクラ。「オクラからカラカラ音がする!」という話題を、教師が学級全体の話題として取り上げ、中身は一体どうなっているのか考えた。

【成果】

○幼児の関心や気付きを逃さず、学級全体に共有したことで、幼児の思考を促した。

3年 社会科 「千代田区のように」



○テーマを決めて調べる活動

視点ごとに整理した学習計画を考える中で、千代田区について興味をもった場所や名所について自分でテーマを決めて調べる等、主体的に取り組むことができるように学習計画を設定した。

○振り返りの工夫

次時での問いや調べたいこと、学習意欲について書くなど、自分の学び方について価値付けするための振り返りの視点を明確にし、取り組ませた。

【成果】

○自分で調べたい場所や名所を決めて、テーマを決めたので、主体的に学習に取り組むことができた。自分たちで調べてきた情報を活用し、千代田区の特色について情報を比較することによって学習問題に対する考えをまとめることができた。

○付箋の活用によって、千代田区の特色について情報を比較できた。

6年 国語科 「聞いて、考えを深めよう」



○話し合うテーマを決める

学級内で児童が課題に感じたり、疑問に思ったりできる身近な題材を設定し、児童が最後まで興味をもって追究できるようにした。

【成果】

○身近な話題を選んだことにより、日頃感じていることやこれまでの経験をもとに考えることができ、互いに納得しながら話し合いを進めることができた。

○友達の意見をどのように取り入れたかを振り返ることにより、自分の考えの変容を理解し、まとめ直すことができた。

コミュニケーションカ

3歳児 「よ〜い、どん！」



サーキットのような運動遊びの中で、ゴールに必ず教師がおり、ぎゅっと抱きしめるという遊びを行った。ゴールにいる教師を目指して、繰り返し楽しむ姿が見られた。

【成果】

○教師に受け止められる安心感や嬉しさが、活動への意欲につながった。

4歳児 「色鬼の話し合い」



色鬼の中で、『タッチした』『されてない』という言い合いで遊びが止まった。教師が両者の思いを受け止めながら、「じゃあ次の鬼はどうする?」と視点をなげかけたことで、自分たちで考え遊びを再開する姿があった。

【成果】

○教師の仲介により、相手の思いに気付いたり、教師が問題点を明確にしたりしたことで、自分たちで考え遊びをすすめようとする姿につながった。

2年 生活科 「わたし たんけん」



○環境の設定

個人活動とペア活動を反復することで、「相手に伝えたい」「相手のことを知りたい」という気持ちを高められるようにした。

○ペア活動の工夫

3人〜4人とペアの相手を変えて何度も交流を行い、相手に伝えたり聞いたりすることを反復練習できるようにした。

【成果】

○個人活動とペア活動を反復することによって、発表したいという高まりが見られた。

○反復してペア活動を行うことで、すすんで質問したり、質問内容を選んだりできるようになった。

4年 体育科 「マット運動」



○学習形態の工夫

第1時に観察した技の習熟度と、学習カードにおける技の自己評価において、技能レベルが同一になるように学習グループを編成した。単元を通して固定の4人グループとした。

○ICT 機器をはじめとした教材の活用

学習資料や学習カードはもちろんのこと、ICT 機器を活用しながら友達のよい動きを見付け、伝えられるように教師も間に入りながら価値付けていった。ICT 機器を用いて動画再生をすることで、客観的に自分の動きがふり返ることができるほか、一時停止などをしながら、技の一連の流れから局面を切り取り、ポイントを絞ってアドバイスがしやすくなった。

【成果】

○同じ技能レベルのグループとしたことで、つまずくポイントや課題とする点が近かったため、アドバイスがより具体的になった。

やりぬく力

5歳児 「釘打ち」

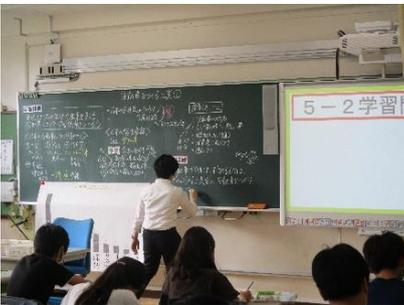


一人一枚のベニヤ板、釘、輪ゴムを用意し、釘打ちの遊びを行った。周囲の友達の姿に刺激を受けて、さらに自分の釘を打つ位置や、輪ゴムの掛け方を工夫する姿が見られた。

【成果】

○ものと同じ向き合える環境、試すことのできる時間を保障することで、根気よく取り組む姿につながった。また、一人一人の工夫やこだわりを紹介する機会を設けたことで、さらに自分のものを工夫しようとする姿が見られた。

5年 社会科 「くらしを支える工業生産」



○学習の流れの統一

児童が安心して見通しをもちながら学習に取り組むことができるように、学習の流れを毎単元・毎時間統一した。

○児童が自ら立てる学習計画

児童が調べたいことから学習問題を設定し、その問題解決につながるような調べる計画を立てさせた。

【成果】

○児童が学習の流れを理解していたことにより、課題解決に向けた学習活動に集中できた。

○本単元での学びをパンフレット形式にまとめて、学習展示会に展示するというゴールを設定し、全員が最後まで見通しをもって計画的に行動し、パンフレットを完成させることができた。

5年 音楽科 「ICTを活用した音楽づくり」



○学習過程の工夫

ICT 機器の活用により、読譜や記譜、演奏に苦手意識をもつ児童も、視覚や聴覚を使って音楽づくりを手軽に行えるようにした。

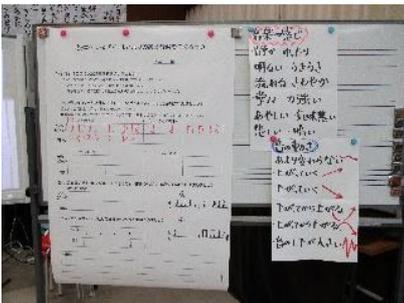
○互いに認め合いながら学ぶための指導の工夫

個人作業から、グループ活動へ展開する際、自分の思いを相手に伝えながら聴いてもらった。また、それらを組み合わせて、新たな作品に仕上げる作業をとおして、他者の作品をよりよく生かすために、どのようにしたらよいか試行錯誤する時間を設けた。

【成果】

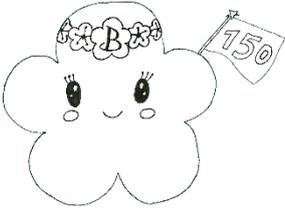
○ICT 機器を効果的に使用することにより、児童の興味関心を高め、最後まで考えることができた。

○個人作業からグループ活動にしたことで、友達とかかわり合いながら作り上げることができた。



今年度の研究指導案集

令和3年度校内研究 1学期研究授業の指導案集(QRコードを読み取ってご活用ください)

番町幼稚園 5歳児 「『おばけがぞろぞろ』 の続きをグループで作ろう」	1年1組 算数 「どちらがながい」	2年1組 国語 「あったらいいな こんなもの」	3年2組 社会 「千代田区の様子」
			
「うめっぴ」だっぴ! 	4年1組 特別活動 「学級会」	5年1組 国語 「なまえつけてよ」	6年2組 国語 「聞いて、考えを深めよう」
			

※指導案のファイルを開くためにはパスワードが必要です。研究発表会にお申込みいただいた方にパスワードをお送りします。

研究の成果と課題

成果

○問題発見・解決力

授業の中で、もっと知りたい、もっと調べたいという子どもたちが増えてきて、学習に対する意欲が高まった。課題解決をするために、自分の考えを見つめ直すことで、新たな考えをもつことができた。

○コミュニケーション力

ペアでの話し合いを繰り返し行うことで、話すことへの抵抗感が減少した。また、相手に伝えたい、相手を知りたいという気持ちが高まった。友達との交流後に、話し合い活動や協働学習の大切さに気付くようになってきた。

○やりぬく力

「学びのプロセス」により、子どもが一単位時間の学習の流れを理解し、課題解決に向けた学習活動に集中することができた。また、子どもたち自身の疑問や調べたいことから課題を見つけて、単元全体の学習計画を設定することで、最後まで粘り強く課題に取り組むことができた。

課題

▲「全員が考えをもつ」ためには、話し合いの視点や学習過程を提示すること、課題設定や学習形態を児童に明示する工夫をしていく必要がある。

▲児童の実態に応じて3つの力をバランスよく単元計画や年間指導計画に盛り込むための教育課程の編成の工夫が必要である。

おわりに

千代田区立番町小学校 副校長 岩淵 和行

本校・園の研究は現在の日本の教育に求められている大きなテーマを研究主題に掲げ、私たちに試行錯誤を繰り返しながら取り組んでまいりました。テーマの大きさに苦しみ時もありましたが、いつも温かく応援して下さる皆様に支えられ、研究はまだ途中ではありますが今日まで取り組むことができました。本研究を進めるにあたり、ご指導・ご助言をいただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。

御指導いただいた講師の先生方

【令和2・3年度】

学習院大学 文学部教育学科専任講師 久保田 福美 先生

聖徳大学 大学院元教授 篠原 孝子 先生

千代田区教育委員会事務局子ども部

指導課長 山本 真 先生 指導主事 牧田 裕一 先生 野津 公輝 先生 塚田 恭平 先生

統括指導主事 田中 博 先生 戸栗 大貴 先生 相場 奨太 先生 山本 孝之 先生

研究に携わった教職員等

◎:研究主任 ○:研究推進委員

校長	渡辺 裕之	ステップ 番町教室 (特別支援教室)	藤川 紀子	特別支援教室専門員	本間 利恵子	5歳児副担任	西山 恵美
副校長	岩淵 和行		松本 翔里	特別支援教育専門員	杉本 美香	4歳児副担任	竹内 淳子
1年	橋本 祐子		村上 千晴		高橋 麻衣子	事務	田中 世津子
	木本 晴奈	宮島 歩	講師(特別支援教育)	池田 紀子	特別支援教育専門員	佐藤 裕枝	
2年	新井 一成	事務		石川 慎也	特別支援教育支援員	富里 麻子	鈴木 野恵
	石渡 茜	栄養士	高野 秀一	清水 みさ子		特別支援教育支援員	豊福 千穂子
	○齋藤 睦	事務補助	三浦 弘美	加藤 日和		預かり保育担当	柳澤 美奈穂
3年	小林 康夫	主事	谷澤 猛	矢野 優佳	丸木 恵		
	◎山口 孝		飯田 道夫			スクールライフサポーター	桑原 真理子
4年	清水 千尋	ALT	谷 光子	理科支援員	中内 美穂	用務主事	木村 恵子
	○中野 薫		マイケル・ラム	スクールサポートスタッフ			高仲 里美
5年	○桑原 竜一	講師	長田 千春	図書館司書	長井 夕子		
	横田 朋		麻生 剛嗣	ICT サポーター	田中 一二美	令和2年度研究に携わった教職員	
6年	○白石 真也		濱田 英明	園長	中村 千絵	茅野 克俊	齋藤 恵
	竹田 誠		赤間 美紀	幼稚園主任・4歳児担任	今野 裕美	堀野 真理子	伊賀原 純子
算数少人数	○馬場 善之		山本 美枝子	3歳児担任	◎齋藤 希	井原 優子	花輪 莉奈
音楽	風間 冴佳		大久保 綾乃	5歳児担任	近藤 あゆみ	國枝 亜弥	加藤 翼
図工	柳原 久乃		伴野 温子	3歳児担任	佐伯 夢羽	小林 由紀子	井上 雅美
養護	小松 和子			3歳児副担任	藤井 恵美	柳沢 君夫	